



す。

「喜入住民への説明の場」が設けられるように取り組んでいくことが必要です。

らかになりました。

でも再度県警に要請していく態度が明らかになりました。

「喜入住民への説明の場」が設けられるように取り組んでいくことが必要です。

「喜入住民への説明の場」が設けられるように取り組んでいくことが必要です。

「喜入住民への説明の場」が設けられるように取り組んでいくことが必要です。

「喜入住民への説明の場」が設けられるように取り組んでいくことが必要です。

「喜入住民への説明の場」が設けられるように取り組んでいくことが必要です。

# 市長 「今後も住民の皆様へ説明を十分尽くしていただきたい」

喜入地域 駐在所廃止問題 たてやま清隆市議が追及

たてやま清隆市議は、今年2月、住民との合意もなく、県警本部が一方的に決定した喜入地域の3駐在所廃止問題について、市当局の見解を質しました。

又たてやま清隆市議は、日本共産党の松崎真琴県議の質問に対する県議会での質疑について、市当局の認識を質したところ、県警本部長は「説明を粘り強く行い、住民の方々の不安解消に努めたい」と答弁し、文教警察委員会においても、県警が喜入住民への説明努力を続けていくことが答弁されているという認識を示しました。

しかし、県議会での答弁から3ヶ月経過した今もなお、県警から喜入住民への説明が全くないことに対する市当局の見解を質しました。市当局は「(県警は)住民の皆様へ説明する場を設けられ、住民の不安が払拭されるよう、十分な説明を行っていただきたい」と答弁し、市当局としても県警に再度要請していく態度を明らかにしました。

質問の最後に、たてやま清隆市議は、市長に対し、「このままでは、住民と警察の信頼関係が損なわれ、本市の安心・安全の喜入のまちづくりに悪影響を及ぼすので、市長ご自身がご尽力される時ではないか」と問いかけ、見解を質しました。市長からは、これまでも県警に要請してきたが、「今後も、住民の皆様へ説明を十分尽くしていただきたい」との答弁があり、市長としても再度県警に要請していく態度が明らかになりました。



個人質疑にたつ たてやま清隆議員

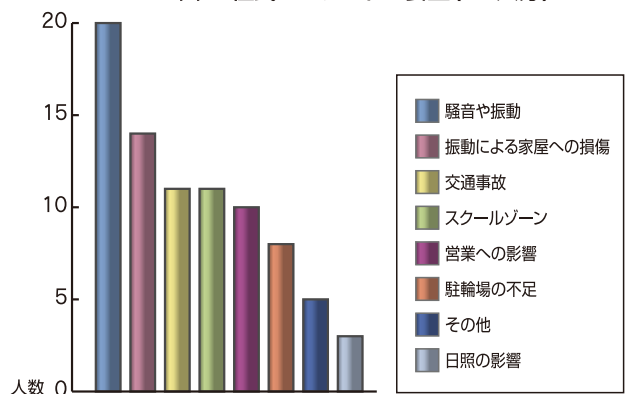
## 谷山地区 連続立体交差事業への要望

～住民アンケート中間報告～

たてやま清隆市議は、平成28年度完成を目前に工事が進められている谷山地区連続立体交差事業(鉄道高架化事業)について、住民アンケートにもとづいて質疑しました。アンケート調査は、まだ途中結果ですが、右図のように、「騒音や振動」「振動による家屋への損傷」などが上位を占め、対策の具体化について要望が出されています。

市当局も「細やかな情報提供や必要に応じて説明会の開催を行うなど、地元住民への周知に努めてまいりたい」と答弁し、今後必要な対策を行うことを確認することができました。

図3: 住民アンケートの要望(45人分)



### 日本共産党鹿児島市議団



- 団長 大園たつや市議
  - 議会運営委員会 ●経済企業委員会
  - 都市整備対策特別委員会
- 副団長 桂田みち子市議
  - 環境文教委員会 (決算特別委員会)
- 幹事長 たてやま清隆市議
  - 総務消防委員会
  - 桜島爆発対策特別委員会

### 生活相談のご案内

- と き 毎週月曜日 午後1時より
  - ところ 市役所日本共産党議員団控室(別館3階)
- 電話 216-1440 FAX 225-5607